

(様式5)

# 調査報告書

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 8月 4日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 20分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ゲンキ館 ( 鹿児島県 )
-------------------	--------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u> 氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>館長</u> ・ <u>管理者</u> ・ <u>計画作成担当者</u> 氏名 <u>宮澤理香・水川ちさ子・内野千枝美</u> ヒアリングを行った職員数 4名

### ※記入方法

●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

### ※項目番号について

●外部評価項目は30項目です。

○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

### ※用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670104522		
法人名	医療法人 サン・レオ会		
事業所名	グループホーム ゲンキ館		
所在地	鹿児島市上之園町29番地1 4 (電話) 099-258-7113		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年8月4日	評価確定日	平成20年9月12日

## 【情報提供票より】 (平成20年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年 8月 22日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤4人, 非常勤2人, 常勤換算5.3人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート鉄骨 造り		
	4階建ての ~ 4階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500~36,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要 ( 7月 1日現在 )

利用者人数	9 名	男性 6 名	女性 3 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 81.9 歳	最低 69 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 甲南クリニック 浜島歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な生活環境が整っている場所にホームは位置している。法人の医療機関では、透析治療を行っており、状況に応じ、透析治療を必要とする認知症の高齢者が入居できるホームである。ホームは、法人の医療機関の4階部分にあり、日常的に健康管理や緊急時の対応、リハビリの実際の方法など相談連携体制が整っている。理念である個人の尊厳を尊重することは、非常に重要であり、本当の意味で実践する難しさを運営者は常に職員に問いかけ職員は、日々実践に取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の再検討や地域との交流を少しずつ増やす取り組み、研修の充実など、職員で協議し質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を自分たちの日々の支援の振り返りの場と認識している。自己評価は全職員で取り組んでいる。評価を活かし、職員の意識・質の向上を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、サービスの取り組み、現況、地域との交流などの課題点など報告や話し合いがされている。意見も活発にでていますが、そこでの意見を活かす取り組みはこれからである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が交替で運営推進会議に出席することで意見を表せる機会を設けている。職員は、家族が意見や不満など話しやすい雰囲気心がけている。出された意見は、職員で協議し出来ることはすぐに取り組むように努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的に同法人の通所リハビリにて、地域の住民との交流を図っている。自治会にも加入している。小学校がホームの向かいにあり、小学校のバザーや幼稚園・小学校などの運動会等にも出掛けている。踊りや音楽などのボランティアの訪問もある。「本人、家族の思い、個人情報の保護、開かれたホームとは」とあらゆる視点で模索しながら少しずつ地域との交流に取り組んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

主任調査員 中村 朋美 / 調査員 浜田 千里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人としての尊厳の尊重を大切にし、地域の中で家庭と同じような生活を共におくることを目指したホーム独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示により、理念の意識づけを図っている。ミーティングなどを利用し、課題点など生じた場合や日常の支援の中で理念に戻り、職員と意見交換するなど理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に法人内の通所リハビリにて、地域の住民との交流を図っている。自治会にも加入している。小学校のバザーや幼稚園・小学校などの運動会にも出掛けている。踊りや音楽などのボランティアの訪問もあり、地域との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を自分たちの日々の支援の振り返りの場と認識している。自己評価は全職員で取り組んでいる。評価を活かし、職員の意識・質の向上を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、サービスの取り組み、現況、地域との交流などの課題点など報告や話し合いがされている。意見も活発にでているが、そこでの意見を活かす取り組みはこれからである。	○	出された意見を職員や運営推進会議委員などで更に協議し質の向上につなげる取り組みに期待したい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、必要に応じ連絡・連携を図っている。市の担当者以外でも介護相談員の受け入れや保護の担当者や包括支援センター職員などホームの実情を伝えている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	行事やホームの様子など毎月ホーム便りを発行している。近況や健康状態など家族の訪問時や電話連絡など個々に応じた報告をしている。金銭管理は、出納帳にて家族の訪問時に報告している。職員の異動は、家族の訪問時や運営推進会議などで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交替で運営推進会議に出席することで意見を表せる機会を設けている。職員は、家族が意見や不満など話しやすい雰囲気心がけている。出された意見は、職員で協議し出来ることはすぐに取り組むように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し、異動は極力しないようにしている。代わる場合は、入居者にきちんと紹介し、入居者一人ひとりの状況や業務のなれなど細かく伝えている。早く馴染めるように勤務体制を工夫し、職員同士連携を図っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、力量や資格などに応じた外部研修に交替で参加し、報告もされている。研修の計画はないが、内部研修では、接遇や口腔ケア、理学療法士による実際のリハビリについてなど随時学ぶ機会が確保されている。資格習得に向けても応援体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームのケア会議に出席している。課題点など出し合い、他のグループホームの意見を参考に地域との交流など質の向上につなげるよう努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人にできるだけ見学してもらい、本人が納得して入居できるように家族などと相談している。本人に関する細かな情報の把握に努め、入居前と入居後の差が極力でないよう職員は十分に配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	桜餅や団子の作り方など日常的に入居者から職員は学び、互いに感謝の言葉を交わしている。尊敬の念を忘れずに共に生活し支えあう関係に努めている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者一人ひとりの言動や表情などから思いや意向の把握に努めている。言葉や表情に表せない時には、言葉掛けを工夫し寄り添いながら思いや意向を引き出すことに努めている。家族等からも情報を得ている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を尊重し、職員の意見や主治医、理学療法士などの意見を参考に担当者会議を開き、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の現況の確認と3ヶ月毎のモニタリングを通し、入居者一人ひとりの介護計画の期間に応じた評価や見直しがされている。状況の変化に応じ、本人、家族、職員、関係者などと随時話し合い新たな計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や希望に応じた、通院支援や美容院などの移動支援をしている。法人内の通所リハビリ事業や医療機関との連携を図りながら音楽療法やリハビリなどの支援など柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医であり、安心できると法人内のクリニックがほとんどである。眼科や皮膚科なども本人、家族の希望するかかりつけ医である。各医療機関や家族、ホームとの連携を図り情報を共有し適切な医療をうけられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の疾病や状況に応じ、家族と職員と医療機関などと繰り返し話し合い全員で方針を共有している。ホームとしての重度化や終末期における対応指針は定めておらず、今後の検討課題と考えている。	○	職員や医療機関と十分に協議し、ホームが対応しうる最大限の対応指針を定め、家族や関係者などと方針を共有する取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳の尊重はホーム理念であり、日々点検や意識の向上・徹底を図っている。個人情報保護についても職員は周知している。言葉掛けや対応、文書の取り扱いなど十分に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはある。起床、食事、入浴など一人ひとりのペースを大切に、無理強いほしない柔軟な支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内での調理は、炊飯やきざみ、おかゆ、おやつづくりなどである。主に法人内のクリニックで調理している。入居者の意向や状況に応じできる範囲で片付けや、団子づくりなど職員と共に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の意向や状況に応じて、一人ずつゆっくりと入れるよう支援している。同法人内にある週1回の大浴場での入浴は、入居者の楽しみの一つとなっている。入浴が億劫な入居者に対しては、入浴を無理強いすることなく、言葉掛けや体感してもらうなど工夫し対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや裁縫など生活歴や力を活かした支援。唄や踊り、折り紙などの楽しみごとの支援。散歩や買い物、ドライブなどの気晴らしの支援など入居者の意向や状況に応じた柔軟な支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、法人内の通所リハビリに通っている。入居者の意向や状況に応じて、散歩や買い物、散髪、ドライブなど一人で外出できない入居者も一緒に戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の同意のもと常時施錠している。職員は、入居者の様子を把握し、外出の意向がある場合などは、職員は本人が納得するまで一緒に寄り添い外出している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、昼夜問わない避難・通報訓練など実施している。職員同士災害時の対応手順について確認を取り合っている。地域との協力や備蓄などについては、今後の検討課題と考えている。	○	地域住民の協力や避難訓練への参加、備蓄の準備など具体的な検討や取り組みに期待したい。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内のクリニックの管理栄養士により栄養バランスなど管理されている。盛り付けの工夫やおかゆや刻みなど入居者の状況に応じた対応をしている。食事・水分摂取量は把握がされている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、ゆったりと明るく清潔である。音や光にも配慮がされ、ソファなどくつろげる場もある。季節の花や装飾がされ、窓からの眺めも良い。居心地よく過ごせる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、一人ひとりの個性がある。テレビや仏壇、冷蔵庫、家族の写真などが持ち込まれている。本人が過ごしやすい居室であるよう工夫がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。